

退屈じゃないのは、オートバイだけなんだ。

ふたりがひとつになって
走ったとき、僕の青春は
あざやかに加速する。

僕の、バイクグラフィティ。

大林宣彦監督作品

原田貴和子・第1回主演

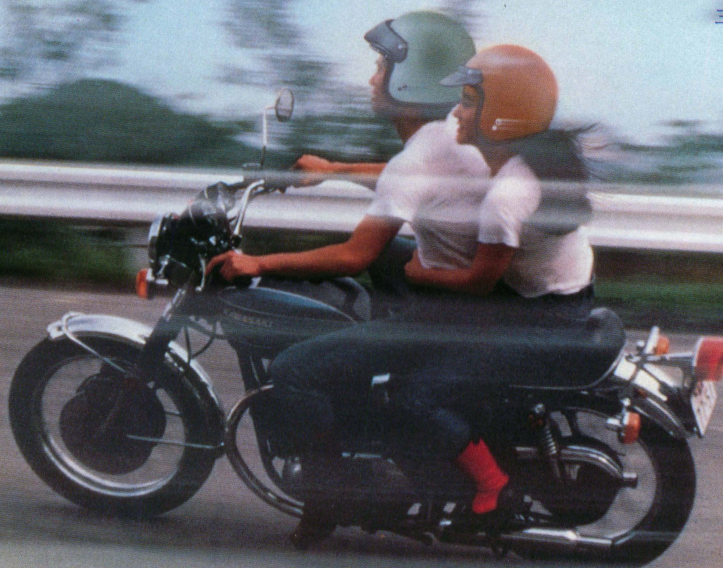
彼のオートバイ 彼女の島

製作●角川春樹/原作●片岡義男(角川文庫版)

プロデューサー●森岡道夫・大林孝子/脚本●関本智夫/撮影●田本幸尚/美術●鎌谷和夫/音楽デザイン●林 高平/編集●大林宣彦/音楽監督●宮崎尚志
音楽プロデューサー●石川 光/主配役●彼のオートバイ彼女の島/原・原田貴和子(角川レコード)/キニオンレコード/製作●角川事務所/配給●東宝株式会社



原田貴和子
渡辺典子
竹内 力
高柳良一
田村高廣(特別出演)
根岸季衣
三浦友和





解説

発売以来、若者を魅了して止まない片岡義男の世界。遂に映画化。全編“オートバイの疾走感”溢れる作品として完成した。爽やかな風が吹く初夏の信州。1人、オートバイで旅立った男の前に、風のように現れた女。都会の雑踏の中、オートバイを通し、自然に結ばれていく2人。そして、季節は再び夏へ。女は「風が止ったみたい」と言葉を残し(彼女の島)へ帰ってしまう……。

この不思議な魅力を持つ女、白石美代子役に「アフガニスタン・地獄の日々」で、鮮やかにスクリーン・デビューした原田貴和子が日本で初主演する。恋人役の橋本功には、新人ながら監督に「この役を演じられるのは、この男しかいない」と言わせた竹内力が全力で取り組む。功の親友、小川役は高柳良一。その恋人、冬美役には一作ごとに演技派として評価を高めている渡辺典子が、原田貴和子と好対照な役柄を演じている。又、冬美の兄に三浦友和、美代子の父に名優、田村高廣が好演している。

監督は「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」などで、少女の心の変化を叙情的に描きだした大林宣彦。片岡義男の原作(角川文庫版)をもとにして、意欲的に取り組んでいる。監督は今回の作品を一言で表現するならば「60年代のノスタルジアをオートバイ・島という抽象的な物に置き換えて描いた映画」と語っている。

物語

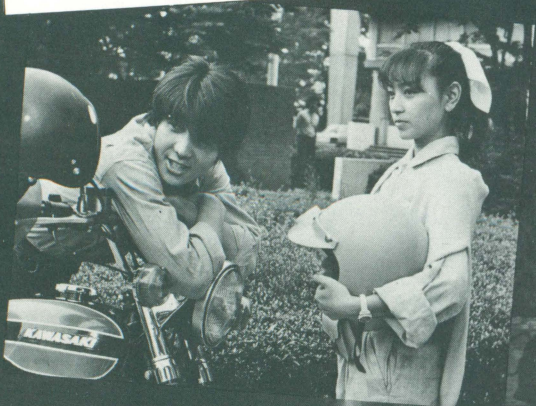
音楽大学に通うかわら、プレスライターとして勤める主人公・橋本巧(コオ)。その彼の前に、妹・冬美とのただならぬ仲の責任をとれと、先輩ライダー・沢田が詰め寄って来た……。心の整理をつけるため、1人オートバイで信州に旅立つ巧。冬美との出来事を回想する彼の前に現れたのが、不思議な透明感を漂わせる美代子(ミーヨ)だった。

数日後、冬美の件で沢田から決闘を申し込まれた巧。そして勝負に勝ったものの冬美とは別れる彼。そんな心の中に、美代子が自然に入ってきた。

夏を迎え、美代子の故郷である瀬戸内の島を訪れる巧。そこで2人の絆は、より確かなものになり、やがて東京に出て来た美代子は、巧の友人・小川と冬美のカップルに出逢う。彼らの間で磨かれてゆくイメージソング「サンシャイン・ガール」を通じ、不思議な連帯感で結ばれる4人。やがて冬美は歌手としての実力をつけ始め、美代子も巧の心に近づくためにナナム・免許への挑戦を始めた。そして、ついに免許を手にした時、巧の前から姿を消した。荒れる巧。そんな巧を思いやる小川と冬美。小川が巧に言葉をかける――。

「コオ、表に俺のCB400がある。そいつに跨って今から素ッ飛んで、彼女の島に!!」――飛び出す巧……。

彼のオートバイ 彼女の島



キャスト

白石美代子 ■ 原田貴和子
沢田冬美 ■ 渡辺 典子
橋本 巧 ■ 竹内 力
小川敬一 ■ 高柳 良一
白石康一郎 ■ 田村 高廣
(特別出演)
ママ ■ 根岸 季衣
沢田秀政 ■ 三浦 友和

スタッフ

製作 ■ 角川 春樹
原作 ■ 片岡 義男
(角川文庫版)
プロデューサー ■ 森岡 道男
大林 恭子
脚本 ■ 関本 郁夫
撮影 ■ 阪本 善尚
美術 ■ 薩谷 和夫
音響デザイン ■ 林 昌平
照明 ■ 高野 和男
録音 ■ 稲村 和己
製作担当 ■ 飯田 康之
音楽監督 ■ 宮崎 尚志
音楽プロデューサー ■ 石川 光
監督 ■ 大林 宣彦

4月26日(土)よりロードショー

道玄坂・緑屋前

渋谷スカラ座 (461)
1929